

広島県乳用牛及び広島和牛改良目標

平成 30 年 3 月
広島県農林水産局畜産課

I 乳用牛の改良目標

基本的な考え方

広島県の生乳生産コストの低減及び牛乳乳製品の需要動向に対応した品質の向上を図るため、遺伝的能力の改良の推進と併せて飼養管理の改善を図ることとし、平成 37 年度を目標とした本県乳用牛の能力等に関する目標を次のとおりとする。

1 能力等の目標

(1) 泌乳・繁殖能力

現在の乳量及び乳成分率の維持を図りつつ、初産月齢の早期化を推進し、良質な生乳が安定的に供給されるよう、総合的な経済性を高めることに努める。

能力に関する目標数値（平均）

区 分	品 種	乳 量	乳脂率	無脂乳 固形分率	乳蛋白 質 率	初 産 月 齢
現 在	ホルスタイン種	9,093kg	3.71%	8.75%	3.28%	25.0か月
目 標	ホルスタイン種	維持	維持	維持	維持	24.0か月

なお、牛群検定牛の乳量については、10,000 kgを目標とする。

※ 現在乳量は、牛乳乳製品統計と畜産統計調査から算出（経産牛乳量）。現在乳質は、乳用牛群能力検定成績のまとめ（平成 27 年度）より。

(2) 体型

飼養管理の効率化等を図るため、飼養環境に適した体型の斉一化及び体各部の均衡を図るとともに、経産牛の供用期間の延長等による長命連産性の向上を図るため、乳器及び肢蹄に着目した改良を推進し、生涯生産性の向上を促進する。

(3) 改良手法

遺伝的能力に優れた推奨種雄牛精液の積極的な活用を促すとともに、牛群検定、後代検定、登録事業及び体型審査を一体的に推進し、泌乳性、繁殖性及び生涯生産性の高い優良雌牛群の効率的な確保に努める。

2 増殖（頭数）の目標

乳用牛の総頭数を 8,800 頭とし、その内、24 カ月齢以上の成牛頭数を 6,700 頭とする。

Ⅱ 広島和牛の改良目標

基本的な考え方

本県の肉用牛は、和牛の4大ルーツのひとつといわれる岩倉蔓が造成されるなど、歴史と伝統があり、早熟・早肥で飼いやすく、産肉性、特に発育増体と体積均称が優れていることを特色として評価を得てきた。

また、平成3年度の牛肉輸入自由化以降、輸入牛肉との差別化のため、脂肪交雑等の肉質の向上を目指す改良に取り組んでいる。

近年は、消費者の食の安全・安心や、適度な脂肪交雑の牛肉に対する関心の高まりなど消費者ニーズの多様化、需要の変化が生じていることから、国際競争・産地間競争力のある「広島和牛」*1づくりを推進する必要がある。

そこで、本県和牛の持つ歴史と伝統を活用し広島血統*2に着目した差別化を推進するとともに、それに対応した良質な牛肉を安定的に供給するため、生産から販売まで一体となった取組を進める。

特に、生産段階においては、広島血統種雄牛の造成と精液の安定供給を進め、併せて新技術を活用した改良手法の導入や飼養管理の改善等を図る。

増体と肉質のバランスが取れた遺伝的能力の向上を図るため、平成37年度の広島和牛の産肉能力、増殖等に関する目標を次のとおりとする。

*1広島和牛：広島県で最長飼育された黒毛和種の牛肉又は牛。代表的な銘柄として「広島牛」「広島和牛元就」「比婆牛」「神石牛」がある。

*2広島血統：広島県の種雄牛である「第38の1岩田」、「第2横利」及び「第21深川」を広島県における黒毛和種の始祖牛として位置づけ、これらの遺伝を保有することをいう。

1 能力等の目標

(1) 肥育牛の能力

早期に十分な体重に達し、牛肉に一定程度の脂肪交雑が入ることに加え、おいしいと評価される牛肉の生産を進める。

そのため、脂肪に含まれるオレイン酸等の脂肪酸、肉のアミノ酸組成や締まり・きめ・色等、牛肉のおいしさ評価に関する科学的知見の蓄積と分析を進め、広島和牛の価値向上を促進する。

また、部分肉歩留まりの高い良質な牛肉の安定的生産を図るため、増体性の遺伝的改良を図り、効率的な肥育を推進する。

肥育終了時月齢の早期化を図るため、繁殖農家からの肥育もと牛の早期出荷と肥育農家の導入月齢の早期化や繁殖・肥育の一貫化を推進する。

ア 去勢肥育牛の増体能力に関する目標数値

	肥 育 開 始 時		肥 育 終 了 時		枝 肉 重 量	1日平均 増 体 重
	月 齢	体 重	体 重	月 齢		
	ヵ月	kg	kg	ヵ月	kg	kg
現 在	8.7	299	767	27.9	483	0.80
目 標	8.0	280	740	24～26	480	0.84

イ 去勢肥育牛の産肉能力に関する目標数値

	脂肪交雑 (BMSNo.)	枝 肉 重 量	ロース芯 面 積	ばらの 厚 さ	皮 下 脂肪厚	推 定 歩 留	肥 育 月 齢
		kg	cm ²	cm	cm	%	ヵ月
現 在	6.1	483	60.6	7.5	2.4	74.1	27.9
目 標	7.0	480	65.1	－	－	－	24～26

※ 現在数値は、平成28年度後期育種価の基データから算出（県内肥育、去勢牛1,353頭）

産肉能力の改良目標は、枝肉の取引の際に重視される脂肪交雑、枝肉重量とロース芯面積の3形質で設定する。

広島和牛の価値向上のため、肉のおいしさ評価に関する目標数値の設定を早期に目指すものとする。

（2）雌牛の能力

繁殖能力及びほ育能力に優れ、強健で粗飼料利用性及び放牧適性の高いものに改良し、1年1産を目指して生産率の向上に努める。

体型は、繁殖性を向上させるため体積の増大に努めるが、発育過大や過肥は避け、種牛性を向上させつつ、飼養管理の容易な雌牛への改良を推進する。

ア 繁殖能力に関する目標数値

	初産月齢	分娩間隔	生産率
	ヵ月	ヵ月	%
現 在	24.7	13.6	88.2
目 標	23.5	12.5	96.0

イ 成雌牛の体型に関する目標数値

	体 高	胸 深	胸 幅	かん幅
	cm	cm	cm	cm
現 在	128.6	65.9	45.7	46.0
目 標	130.0	68.0	48.0	47.0

※数値は、成熟時の雌のもの。現在数値は、平成28年度に登録検査を受けたもののうち、25ヵ月齢以上牛61頭のデータを用いた。

（3）改良手法

科学的な遺伝的能力評価、繁殖能力の評価に基づく計画交配と、広域的な後代検定による産肉能力評価に基づく優秀な種雄牛の作出と有効利用を推進する。

また、肉のおいしさも加味し、多様化する需要の変化に対応した種雄牛造成を進める。

科学的な遺伝的能力評価に基づき改良基礎雌牛群を整備するとともに、広島血統の特色ある優良遺伝資源の確保・利用による「広島血統」雌牛群の整備を図り、雌雄両サイドからの改良を促進する。

(4) その他

遺伝的不良形質の保有状況，経済的得失等に即した交配計画と指導等，適切な対処及び情報公開を図る。

2 増殖等の目標

(1) 増殖等の手法

「ひろしま未来チャレンジビジョン農林水産業アクションプログラム（第Ⅱ期）」に基づき，遺伝的能力評価による優良な繁殖雌牛の整備を図るとともに，乳用後継牛の生産に支障をきたさない範囲での乳用牛への受精卵移植を活用した広島和牛の生産と，第三者継承を含めた新規就農者の確保，既存経営体の規模拡大や法人化，和牛団地の整備等により広島和牛の増頭を推進する。

(2) 増殖等の頭数

肥育牛の頭数を7,540頭とする。